



スポーツ少年団関係の皆様、日々のご尽力に対し厚く御礼申し上げます。

関係の方々のお取り組みには以下にお示しすることがらにおいて、心より共感するとともに深い感謝をいたしております。

第1に「いつも子どもの幸せを願い、愛情をもち手間暇を惜しまず接するお姿」

第2に「運動の苦手な子、心身の弱い子への目配り、長期的展望に立った継続的なご指導」そして何より「家庭や地域と連携し共に育てていく体制」です。

しかしながら、中には、勝つことを目的とするあまり、そのスポーツが上手でない子、心身の弱い子に活動の機会を十分提供しなかったり、体罰・パワハラに走ってしまったりする団も散見されます。特に体罰は、受けている子だけではなくその光景を目にした子にも深いダメージを与えてしまいます。このようなことが、加入率の減少につながっているのだとしたら至極残念なことであります。

入団してくる団員や保護者が指導者に最も期待を寄せるのは『上手になること』であり、『丈夫になること』であり、何より『楽しく活動できること』なのではないでしょうか。そのためのマネジメントを行うのが指導者です。指導者の言動は団員・保護者にとってかなりの重みを伴います。ですから、指導に携わる者が心がけなければならないことは、高い目標の達成を目指し厳しい指導になるとしても、

- ・常に感情の高揚を抑え冷静に団員を指導する
- ・威圧的な指導にならないよう明るく接する
- ・褒める部分を探し豊かな包容力で指導する
- ・主体的に取り組める環境づくりに励む

だと考えます。

スポーツ少年団の理念は、競技スポーツばかりでなく、発育・発達段階を考慮したスポーツ活動のほかレクリエーション活動、社会活動など、幅広くとらえ、子供たちが自由時間に地域社会で異年齢集団の特徴を生かしながら進めていくこと。自主的な遊びの中で、喜びや楽しさ、協調性、創造性など生きていく上で必要な豊かな情操を身に付けさせていくことであり、このことは幼児を加えた指導においても大切にされるべきと考えます。

一昨年度、宮城県スポーツ少年団では、教員、保護者、単位団の関係者に対し、スポーツ少年団活動に関するアンケート調査を実施しました。このアンケート調査をもとに、昨年度、教育関係の有識者を招聘し、「スポーツ少年団のあり方検討委員会」を設置し、少年団のあるべき姿を諮問してきました。このほど提言等をまとめ「スポーツ少年団のガイドライン」として周知徹底を推進していく予定です。

スポーツ少年団の登録が減少することイコール子供たちを取り巻くスポーツや運動遊びの環境の低下につながると言っても過言ではありません。皆様、スポーツを行おうとしている子供の意欲を向上させ、運動好きを増やして子供を取り巻く望ましい環境づくりを共に行っていこうではありませんか。

令和3年8月6日

宮城県スポーツ少年団

本部長 郡山孝幸